



## 温暖な気候を生かし

## 早い出荷を

「たけのこ」講演会に100人



春の味覚「たけのこ」。土倉、瓶岩地区は県下的にも、たけのこの産地として知られています。

二月二十四日、市農協、市地域農業集団、市たけのこ生産連絡協議会主催の「たけのこの生産、加工について」の講演会が、生産農家ら百人が出席し、市農協会館で開かれました。

講師は、たけのこ作りで全国的に知られている京都府の乙訓農協組合長の斎藤敏三さん。約二時間にわたって、たけのこ作りの秘訣と農協での取り組みなど講演し、参加者も熱心に聞き入っていました。

講演内容は――  
たけのこは、いかに上手に作っても、上手に売らなければなりません。出荷が一週間早ければ値は大きく違います。

今、たけのこはどのような状態で販売されているのか。生食用は値が高いため、皆さんが加工用として業者に出しているものも、一部は生食用として扱われているのが現実です。やはり、全量を農協が扱い共同出荷をしていくことが必要です。出荷体制を整えれば、こちらは気候が温暖で、生食用として早い出荷もできる有利さを備えていると思います。

よいたけのこ作りをと、講演会には生産農家ら百人が出席した

たけのこの生長には、養分と温度が必要です。そのために、親竹は十竹当たり概ね二百五十本まで、これ以上多くすると、親竹が養分を吸収し、たけのこに行き渡らず、また地表に直射日光を当てて地温を上げることが難しくなってしまう。今年出たたけのこは、昨年の八月九月に分化し、そのときの雨量は生長に大きく影響しています。雨量が多いということは、肥料の吸収がよくなることで、肥料をやるときの注意点は、尿素体を

の化成肥料をやらないこと。窒素ガスが発生し地下茎を腐らすためです。  
三月ごろ、地下茎に肥料が吸収され、黒々としていた葉が黄色に変わってきたならば、その年は多くのたけのこが生えることでしょう。

私は、親竹は四月二十日までに出したたけのこにします。早く出たたけのこは、早いたけのこを生みます。そして、その親竹は七年目にすべて切る。それ以上置いても

たけのこは減るばかりです。私たちの農協では、たけのこの缶詰工場を持ち、現在年四百トンのたけのこを処理しています。忙しいときには、生産農家の方が「自分で作ったたけのこが、よりよい製品となるように」と、手伝いに来てくれることもあります。  
中国産のたけのこの輸入が増える厳しい状況の中で、やはり地元農協と生産者がいっしょになって取り組んでいくことが大切ではないでしょうか。

## 楽しい人形劇で各小訪問

### 南子連キャラバン隊

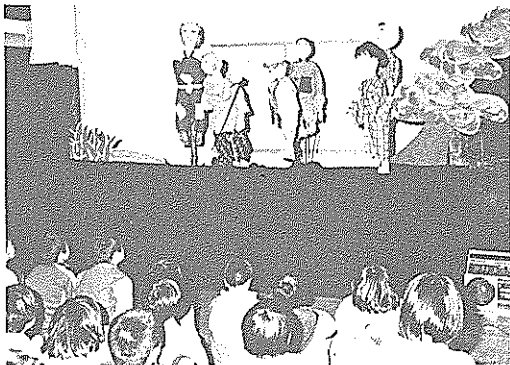
子供たちのたくましい成長を願って、今年も恒例の南国市子ども会連合会（戸田隆会長）のキャラバン隊が二月二十一日、北と南の二コースに分かれ、市内十三小学校と南海学園を訪問しました。

これは、市内にある百二十九の地域子ども会の交流と、より一層の活動を目指し、毎年開かれているもので今年で早十六回目。

北コースの最後は、奈路小学校（松下一雄校長・児童十七人）年

後四時過ぎ、校庭に子供たちが一列に並び「山の子の歌」を大合唱して、キャラバン隊を歓迎しました。

まず、前の訪問先岡豊小からのメッセージが紹介され、竹馬やえんぴつなどをプレゼント。戸田会長が「みんながよい子になってほしいと願いを込めて、お父さんお母さんがいっしょけんめい練習した劇です。お楽しみに」と手作り人形劇を披露



かわいいしばてんの活躍に大喜び（奈路小）

今年の出し物は「しばてん童子」。村人を苦しめる悪代官を懲らしめるお話で、かわいいしばてんの活躍に、子供たちは大喜びでした。